

(仮称)筆の里創造の丘公苑「体験交流施設」新築工事に伴う 基本・実施設計業務公募型プロポーザルの審査結果について

1 特定結果

次のとおり、特定者及び次点者を特定しました。

特定者	環境デザイン機構・角建築研究室設計共同体 代表構成員 株式会社 環境デザイン機構 (福岡県福岡市中央区赤坂 1-11-16 FD+5F) 構成員 角建築研究室 (福岡県福岡市南区大橋 2-2-1 マルイビル 2F)
次点者	有限会社 アトリエ・ワン (東京都新宿区須賀町 8 番地 79)

2 講評

(1) 概要

熊野町は、江戸時代から始まる約 180 年の歴史を有し、筆の生産量、全国一を誇る「熊野筆」の生産地で「筆の都」として発展してきた。

こうした伝統産業や自然環境、地域特性を背景として、第 6 次熊野町総合計画の目指すまちの姿として『ひと まち 育む 筆の都 熊野』を掲げ、町民との共生による信頼と連携を基本に持続可能なまちづくりを進め、『なんかいい』『ちょうどいい』と想えるまちを目指している。

この施設は、『町民が憩い、集える、町民のための場所』として、隣接する「筆の里工房」や現在整備中である「公園エリア」、その周辺環境を活かし、休日は子育て世代(共働き世帯)をメインターゲットとしつつ、平日は幅広い年齢層をターゲットとし、ゆったりとした時間を楽しめるような、町民が集い・憩う空間を創造するとともに、コミュニティの再生や地域リノベーションを創出する人材を育成することや、観光振興による新たな地域ブランドの創出、本町の魅力向上・交流人口の増加、移住・定住の促進を図ることが目的とされている。

(2) 最終審査概要 (A 者～F 者は最終審査時に割り当てられた発表者を示す。)

最終審査では、技術提案書に基づき、1 者当たり発表 10 分・質疑応答 15 分の公開ヒアリングによる審査を行った。

その後、事務局の設定した審議プロセスに沿って公平公正に審査会を開催した。審査会では、最初に全審査委員がそれぞれの提案者に対する印象を述べ、4 つの評価テーマに対

する評価について一同の認識を共有し深めた上で、「議論の対象に残したいと考える提案」を選定するための予備投票を行い、審査委員6名が特定推薦1票、次点推薦1票の計2票を投じた。予備投票の結果を参考とした上で、改めて議論を深めた後、選定者の候補をC者、D者、F者に絞り、さらに各々の優れた事項について議論した結果、全審査委員による審査会の総意として、C者を特定者、D者を次点者とした。

(3) 講評

審査では、①目指す姿を実現するため、効率的・効果的な施設配置及び機能を有する施設機能、②筆の里工房と都市公園等の周辺エリアとの連携を最大限に発揮することで親しみやすく使いやすい場所である連携機能、③豊かな自然・文化、周辺環境となじみ、地域のシンボルとして長く愛される象徴的機能、④限られたコストの中で、求められた予算・性能。工期を満足する経済性・実現性、以上4つの評価テーマに沿って議論された。

特定者（C者）の提案は、予備投票で特定推薦3票、次点推薦1票を獲得した。「創作の里山集落」をコンセプトに、敷地内外のランドスケープを重視した提案となっており、劇場広場、創作中庭、交流広場等、多様な広場を点在させている。これらのランドスケープが、あらゆる場所で創作意欲が湧く空間構成、筆の里工房との連携性などを実現しており、また公園エリアからの眺望景観に対する配慮もなされており、総合的に優れていると評価された。

里山集落として提案された入り組んだ路地（通路）に関しては、筆の里工房と公園エリアを繋ぐ動線面の懸念があるものの、一方で、あえて路地とすることにより、体験交流への好奇心や期待感を感じさせる仕掛けとなる可能性が感じられるとの評価を得た。

総じて施設機能、連携機能、実現性については、高い評価であった。一方で、町のシンボルとしての象徴的機能についてはさらなる検討が必要と考えられるが、この点については、基本・実施設計での発展性に期待し、特定者の決定に至った。

次点者（D者）の提案は、予備投票で特定推薦2票、次点推薦2票を獲得した。「筆の里工房と公園をつなぐゲート」をコンセプトに筆の里工房と公園エリアの連携機能を高め、また円形の平面により象徴的機能を持たせており、さらに、ネムの木を残した屋外広場を中心に体験交流が育まれる景観も魅力的であり、総合的に優れた提案であった。一方でカフェ・レストランの配置が駐車場から離れており、管理・運用面での施設機能に懸念があり、次点に留まった。

非特定者（A者）の提案は、予備投票では票を獲得できなかった。「斜面と大屋根が育む里山の暮らし」をコンセプトに、熊野町の原風景をイメージし、公園エリアで棚田を活

かすことにより、熊野町に馴染みのある景観を形成するという意図の提案であった。簡易提案書で評価を得た八角形の体験交流ホールについて発展が期待されていたが、特に踏み込んだ内容が感じられなかったことは惜しまれる点であり、予備投票後の議論の対象として残らなかった。

非特定者（B者）の提案は、予備投票では特定推薦1票を獲得した。一筆書きをイメージし、柔らかさを体現した形態により、建物全体で流動的な空間が形成されており、象徴的機能が際立つ、魅力的な提案であった。簡易提案書から具体的な構造検討がなされ、施工に関しての実現性が窺えると評価された。一方で、雨音や屋根回遊による屋内への騒音に対する懸念、コストに関する実現性への懸念、建物と中庭（ふでにわ広場）との連続性の乏しさ、周辺施設との連携機能の乏しさを指摘する意見があり、最終議論の対象として残らなかった。

非特定者（E者）の提案は、予備投票では票を獲得できなかった。「大きな軒下に寄り添う創作と交流の場」をコンセプトに、バリアフリーを実現した循環型の道「インクルーシブ・パス」や棚田テラス等、ランドスケープに配慮した、連携機能を重視した提案であり、特にランドスケープやテラスと駐車場の動線が評価された。一方で、大きな軒下を構成する屋根の実現性、棚田テラスによるバリアフリーへの対応等について懸念の声があり、また建物内部に対する配慮が感じられなかったとの指摘もあり、予備投票後の議論の対象として残らなかった。

非特定者（F者）の提案は、予備投票では次点推薦を3票獲得した。周辺の地形に配慮した「丘」をコンセプトに、広場を中心に西側に創作スペース、東側に交流スペースを配置し、それらを大屋根で覆うというもので、施設機能と連携機能のバランスが取れた提案であった。季節や状況に応じたレイアウトが可能であり利便性が高く、また建設コストも安価であることから実現性の高さも評価された。一方で、公園エリアから見る大屋根の景観に対する懸念の声があり、また筆の里工房との一体感が感じられないことや、建物の壁面が大型サッシで囲まれていることによる創造広場の空調管理上の課題も指摘された。特に、筆の里工房と公園エリアを繋ぐ連関性に配慮が感じられなかったことは惜しまれる点であり、最終議論の対象となったものの、特定には至らなかった。

（4）総評

本プロポーザルでは、36者の参加表明があり、まず1次審査にて6者を選定した。最終審査では、この6者より提案をいただいた後に、審査委員会の議論を経て特定者・次点者を選定した。まず、6者それぞれより、真摯な提案をいただいたことに感謝申し上げたい。

審査委員会は、建築分野のみならず、多様な分野でご活躍の方々に構成されており、選考プロセス全体を通じて、様々な価値観がぶつかり、意見が割れる場面も数多くみられた。そのような選考を経て特定者・次点者となった2者の提案は、多様な評価の視点に晒されても一定の評価を得ることができる、総合的に優れた提案であった。その中でも、特定者の提案は、より「社会（≒多様なステークホルダー）」の共感を得られる、魅力的なものであったと考えられる。

本プロポーザルの審査を通して、個人的には、「建築」という行為や批評が、「建築」という分野に閉じてしまいがちな現状に危機感を感じた。言い古された言葉にはなるが、「建築」は「社会」と対話をし、その相互対話の中で、デザインを進めていくという作業に、もっと時間とエネルギーを割く必要があるように感じた。特定者には、是非、「社会」との対話を通じて、真の意味での「社会に開かれた建築」を実現していただきたいと、期待を込めて申し上げたい。

3 審議経過等

(1) 審議内容

ア 評価基準、評価要領の策定

①施設管理や運用面における施設機能、②筆の里工房と公園エリア等の周辺エリアとの関連性を求める連携機能、③熊野町を尊重する象徴的機能、④コスト面、施工面における実現性についての4つ評価テーマを含め、評価基準及び評価要領等を策定

イ 技術提案書の提出者の選定（1次審査）

参加表明書の提出者（36者）について、技術提案書の提出者を選定するための基準による評価を行い、技術提案書の提出者（6者）を選定

ウ 技術提案書の特定（最終審査）

提出された技術提案書（6者）について、公開ヒアリングを実施した上で、技術提案書を特定するための基準による評価を行い、特定者及び次点者各1者を特定

【審議経過】

令和4年6月6日	選定委員会（第1回）	評価基準、評価要領の策定
令和4年6月17日	公募型建築プロポーザル公示	
令和4年7月19日	参加表明書等の提出期限	36者提出
令和4年8月1日	選定委員会（第2回）	技術提案書の提出者の選定（6者）
令和4年8月8日	技術提案書の提出要請	
令和4年8月17日	競争的対話	提出要請者（6者）と対話
令和4年9月15日	技術提案書の提出期限	6者提出
令和4年9月26日	選定委員会（第3回）	公開ヒアリング、技術提案書の特定

(2) 熊野町建築設計者選定委員 (敬称略)

委員区分	氏 名	役 職 等
外部委員	田中 貴宏	広島大学大学院 先進理工系科学研究科 教授
外部委員	龜谷 清	公益社団法人 日本建築家協会 中国支部 元支部長
外部委員	野村 重存	画家
外部委員	石井 節夫	一般財団法人 筆の里振興事業団 理事長
外部委員	木暮 良徳	株式会社 人事部
外部委員	的場 弘明	広島県 土木建築局 総括官